



# 工高タイムス

北海道旭川工業  
高等学校新聞局  
〒078-8804  
北海道旭川市緑が丘  
東4条1丁目1-1  
発行人(局長)  
佐々木 晃成  
(電気科3年)

## ものづくり コンテスト

### 土木科 測量部門

## 全道で3位に入賞 「来年こそ優勝し全国へ」

土木科は3年生の秋山雄星君と竹内大輝君、2年生の秋好遥輝君の3人が8月8～9日に苫小牧工業高校で行なわれた第24回高校生ものづくりコンテスト北海道ブロック大会の測量部門に出場した。旭工は3位に入賞し優良賞を受賞した。



左から竹内君、秋山君、秋好君

測量部門の競技内容は測量機器のトータルステーションを使用し五角形の角度と距離を測量し、得られた値を計算しそのタイムと正確性で競う。

秋山君は「優勝を目指していたので悔しかった。しかしやれることはやっての3位だったので後悔はしていない。体調管理に気を付けて、練習では本番の意識を持って集中して取り組んだ。大会では注意事項に気を付けながら、できるだけ速く正確に行なった。来年に向けて後輩たちには優勝を目指して練習を頑張ってほしい」と話した。

竹内君は「外で行なった競技は自分としてはベストを尽くせたが、計算では緊張したせいで途中から頭が回らなくなってしまい、思うような結果が出せず悔しかった。トータルステーションの持ち方や据え付けの手順などを規則に違反しないように気を付けた。据え付けをするときに地面が柔らかすぎるところや練習とは全然違う環境だったところに苦戦した」と語った。

秋好君は「ものづくりの大会に出るのは初めてだったので良い経験ができた。練習では焦らず落ち着きながらも、

## SNSの危険性

### 局説

皆さんはSNSをどのくらい利用しているだろうか。LINEやX(旧Twitter)などであつという間に時間が経ってしまうものもあるだろう。

### 一度立ち止まって考える

子ども家庭庁が今年3月に公開した令和5年度青少年のインターネット利用環境実態調査報告書によると、高校生の99・6%がインターネットを利用している。10～17歳が利用している機器はスマー

世界の中の人から攻撃された選手はど

まっって考えてから送るのがマナーだ。

中学生に教える宮原悠真君(左)



### 情報技術科

## 中学生がCG体験

### カービィ作りをサポート

情報技術科は8月6日に中学生対象の「CG作り」をデー

の「情報技術科活性化計画」のメンバー13人がゲームのキャラクター「カービィ」を作る

作業をサポートした。

参加した中3の男子は「中学校の先生から勧められ、情報系の学校に興味があったので参加した。作り方が複雑だったが、分かれれば楽しかった。元々パソコンが好き。好きなカービィを作れて良かった」

と分かりやすく説明ができるようにしたい」と話した。

吉田壮汰君(3年)は「参加者たちは初めてソフトウェアに触る人ばかりで、説明するのが大変だった。情報技術科について知ってもらえて良かった。今後も課題研究は続くので、地域の人に情報技術科についてもっと知ってもら

### ★旭工 ライフ

### 表現力を高める

演劇部部長  
鈴木太智君(情3)



オムレツが好き

演劇部は9月27日に鷹栖町のたかすメロディーホールで行なわれる高文連上川支部演劇発表大会に出場する。上演作品は菊地悠真君(電3)が脚本を書いた「Noway to run」。旭工の日常を面白おかしく伝えて観客を楽しませたい。腹式呼吸や「外郎(ういろう) 売」な

どの基礎練習で滑舌を良くし、即興劇で表現力を高める練習をしている。部員は3年生が7人、2年生が10人、1年生が2人の計19人。昨年は練習時間が足りなかったため、今年は早めに動くようにしている。支部大会に向けて入賞はあまり気にせず観客にどれだけ楽しんでもらえるかを意識して練習している。後悔しないように観客を楽しませて部員も納得できて楽しめるようにしたい。後輩は抑揚や言い回しなどの演技力が3年生を上回っているため、今後の演技に期待している。

素早く正確に行なった。先輩よりも計算の速度が遅いので学校だけではなく、家でも毎日練習を1時間行なった。大会では自分たちなら大丈夫と

いう自信を持って取り組むことを意識した。しかし慣れない環境での計算だったので、少し計算を間違えてしまった。全国大会に向けて練習を重ね

たので、3位という結果はとて悔しい。来年こそは1位を取って全国大会に行けるように練習を頑張りたい」と話した。

と語った。

また別の中3の男子は「情報技術科が第一志望なので、情報技術科について知るために参加した。理解するのが難しかったが、高校生が分かりやすく教えてくれて楽しかった」と話した。

サポートした佐藤大輝君(3年)は「カービィの作り方をまず自分が覚えるのが大変だった。年齢が違う人と関わられて良かった。12月にも体験会があるので、その時はもっと分かりやすく説明ができるようにしたい」と話した。



夏休みにクラスの友達と2人で稚内の宗谷岬へ日帰り旅行に行った。JRで旭川を6時過ぎに出発し、普通列車で約6時間かけて稚内へと向かった。見たことは何度かあったが、JRで国鉄時代のキハ40に乗ったのは初めてだった。キハ40は来年引退するという貴重な体験ができてとても良かった▼南稚内駅へ到着し、昼食は友達を選んでくれたお店で食べた。とてもおいしかったのでぜひともまた行きたい▼食事後はバスで宗谷岬へ向かった。あいにくの雨で風も強かったが、記念写真を撮り、最北証明書や宗谷岬がデザインされたTシャツを買った。その後、近くにあった宗谷岬神社にお参りし賽銭を入れた▼そこからバスで稚内駅に行った。稚内駅は建物本体から天井、階段などのレイアウトが独特で、建築科で習ったこととつながりがあり、興味深かった。稚内駅には映画館とゲームコーナーが併設されており、友人とバックマンを楽しんだ。結果は1勝2敗で私が負けた▼18時前に特急に乗り、稚内を後にして名寄へと向かった。天気は荒れていたが、運休にならずに良かった。帰りの汽車の中ではLINEの話で友人と盛り上がった▼名寄駅に着き、普通列車に乗り換え降り、そこで友人と別れた。保護者なしで旅行に行くのは今回が初めてだったので緊張したが、達成感が大きいためになったので皆さんにもお勧めしたい。(建1野内)

ウェブ掲載用紙面は、画像の一部を加工しています。

## 建築科

ワークショップ 住宅をリノベーション  
建築主の要望を取り入れる

北海道建築士会旭川支部青年・女性委員会主催のワークショップ「昔ながらの住宅をリノベーションしてみよう!」が7月30日に建築科製図室で行なわれ、建築科の1〜3年生9人が参加した。

ワークショップ 後半は平屋住宅を自宅兼カフェに改装するための間取りを考えるリノベーション計画の体験が行なわれた。

橋本壮真君(3年)は「授業では普段行なわない体験ができて楽しかった。建築士の方と交流ができて、全く違う視点でリノベーション計画を体験できた。将来は設計の仕事に就きたい。設計とリノベーションには共通点が多いので、この経験を今後に生かしていきたい」と語った。

澤崎陽向君(2年)は「リノベーションについて自分で考えて計画できて楽しかった。



建築士(左から2番目)から助言を受ける生徒

## 電気科

就職したい気持ちを伝える  
志望動機は仕事の魅力を6割

電気科3年の履歴書作成は6月26日から始まり、HR教室と電気科実習室で行なわれた。作成手順はまず



下書きをする小西楓君(電3)

企業を調べ、志望動機を考える。次に下書き用の履歴書で練習を行ない、清書用の履歴書に鉛筆で下書きした後、ペン書きをして完成させる。

道内の企業を受ける小西楓君は志望動機欄に仕事に対して自分が感じている魅力や就職したい気持ちがあるように書いたという。「心掛けた点はバランス良く奇麗に文字を書いたこと。資格の正式名称を間違えないようにしっかり調べた。担任の鈴木理恵先生と副担任の中谷真樹先

授業で学ばないリノベーションや建築士の方の話を聞くことができた。今後の進路活動につなげたい」と話した。

古俣権君(1年)は「建築主の要望を聞きながら、どういったことをしていくのかをグループの皆で考えを出し合うことが楽しかった。初めてのプランニングで間取りについて考えるのは難しかった。これからコンペティションやプランニングに向けて練習を重ねていきたい」と話した。

## 職場見学

社員の雰囲気が良い  
エンジンの点検作業に感動

受験前の企業に職場見学へ行った3年生に取材した。

佐藤隼斗君(機3)は8月7日に東京都にある株式会社IHI航空・宇宙・領域ライフサイクルソリューションセンターで説明を受け、ジェットエンジンの点検作業を見学

## 進学講習

過去問を解く  
復習を重ねる

数学の講習に集中する3年生

3年生の数学の進学講習が堂腰順一先生を講師に7月24〜26日に行なわれ、受講者は高等学校卒業程度認定試験の4年分の過去問を解いた。

佐藤汐恩君(建3)は「室蘭工業大学に行きたいので、その受験対策として参加した。似た問題を解いていくうちにパターンが分かった。数学Iの範囲を思い出すのが大変だった。今年は夏休みが長いので習ったことを忘れないように勉強する」と語った。

梅田能成君(機3)は「家ではやる気が出ないので参加した。試験にも似た問題が出るので自信につながった。入試には面接もあるので先生方と練習して様々な助言をもらいたい」と話した。

上出惇弘君(化3)は「受験勉強をするために参加した。色々な年度の問題を解いて傾向が同じだと分かったので、すべて解けるようになる。忘れていた単元があったので復習を重ねたい」と語った。

と練習して様々な質問に対応できるようにしたい。SPI対策ではミスを少なくするために繰り返し問題を解いていきたい」と語った。

梶美羽さん(化3)は8月1〜2日に千葉県にある富士石油株式会社を見学した。「優しくフレンドリーに仕事をしていた。寮の部屋は綺麗でジムがあり、快適に過ごせそう。就職試験に国語や数学があるので事前に勉強をしていきたい」と話した。

鈴木斗真君(化3)は8月1〜2日に千葉県にあるJNC石油化学株式会社を見学した。「仕事では有機化学の知識を使うことが多く、重合反応やオキソ法など化学反応を取り扱うので、工業化学科の授業で学んだことを生かせると思った。卒業までにできる限り資格を取り、明確な目標を立てて必要な知識やスキルを身に付けていきたい。またモチベーションの維持にも力を入れる」と語った。

## 情報技術科

緊張感を持って書く  
字のバランスに気を付けた

履歴書を丁寧に書く吉井大雅君(情3)

情報技術科3年はソフトウェア実習室で履歴書作成をした。一か所でも間違えれば最初からやり直しになるため慎重に取り組んでいた。

道内の企業を受ける佐藤大鶴君は「文字を奇麗にバランスの取れた大きさにするために余白の左右上下を

均等にし、志望動機を書くときに脱字がないか確認しながら清書した。企業へ実際に見学に行ったり、インターネットを利用して会社や仕事の内容を調べた。提出期限内に一度は教頭先生に志望動機を見てもらいたいといけなため志望動機は早めについておいた方がよい」と話した。

道外の企業を受ける吉井大雅君は「文字のバランスに気を付けて読みやすくなるように意識し、緊張感を持って臨み、ミスをしないようにした。多人数の履歴書を数人の先生方がチェックするため、一斉に提出するとどうしても順番待ちの時間がでる。だから人より早く履歴書を完成させた方がよい」と話した。